

茅ヶ崎市，寒川町，藤沢市におけるタゲリー斉調査 10年間(1999-2008 年度)について

樋口公平¹⁾

はじめに

タゲリ *Vanellus vanellus* (Linnaeus, 1758) は、チドリ科の冬鳥で、神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)では絶滅危惧Ⅱ類に、茅ヶ崎版レッドデータリスト(2006)では絶滅危惧種に指定されている。タゲリの好む環境は、平地の見晴らしのよい水田などで、特に湿田が好まれている。

餌は、水田の土の中のミミズや昆虫類などを主として、他にドジョウやトウキョウダルマガエルなどの記録もある。

減少し続けているタゲリの越冬状況を把握し、保護していくためのデータ収集を目的として、1999年度から有志で、2003年度からタゲリー斉調査会で茅ヶ崎市、寒川町、藤沢市で、タゲリの越冬個体数や移動ルートの調査を開始し、2008年度まで10年間年一回の調査を継続実施した。各年度の調査結果については、文化資料館調査研究報告書に発表済みであるが、10年間の推移について総括する。

※「タゲリー斉調査会」の構成メンバー

茅ヶ崎野外自然史博物館、三翠会、日本野鳥の会神奈川支部、神奈川県自然観察指導員連絡会、日本大学生物資源科学部、寒川エコネット、鶴嶺中学校生物部、藤沢探鳥クラブ、地域の市民などの有志

1. 調査日時

調査は主として12月の中旬に実施されたが、1999年度(2000年2月5日)2008年度(2009年1月12日)は荒天順延などで遅くなった。

調査時間はいずれも10:00～12:00で行われた。

2. 調査地点

調査地点はタゲリの確認された実績のある場所や、渡りの初期に立寄った情報のある場所、見晴らしのよい水田地帯が選定された。なお調査員の人数が多い場合には地点を増やした。タゲリがまったく確認されない、タゲリが飛来した情報がない場所については、その年の調査員の人数を勘案し、調査地点から外した。

過去の調査地点は次のとおり

・茅ヶ崎市(12か所)

芹沢(斎場、新道橋、芹沢農地改良碑の各付近)、下寺尾(西方・一ツ橋、北方・駒寄川、北方・寺尾橋)、西久保(大町東側、西側・北側)、萩園島入、平太夫新田、赤羽根五回、室田二丁目

・寒川町(12か所)

岡田、一之宮(西側、北側、南側、東側、八丁目、九丁目)、大曲(三丁目、四丁目)、田端、小動旭橋付近、宮山

・藤沢市(4か所)

打戻、大庭(門先、関下)、宮原

3. 調査方法

以下のとおり、統一した方法とした。

1)定刻一斉調査

10:00、10:30、11:00、11:30、12:00に、各調査地点で一斉にタゲリの個体数を数える。

2)移動ルート調査

各調査地点でタゲリの飛来、飛去、通過を確認した場合、その時刻、移動方向、羽数を随時本部に携帯電話で連絡し、本部はその移動先と思われる調査地点に連絡する。このことにより、タゲリの移動ルートを掴む。

各調査地点には、タゲリの識別能力の高いリーダー

を含む2～3人を配置した。
観察には双眼鏡、望遠鏡を使用した。

4. 調査参加者

調査がスタートした1999年度は12名で実施されたが、10年間の調査参加者は延べ460人、平均46人となった。最多は2004年76人である。

5. 全体の調査結果推移

表1に湘南地区のタゲリ越冬数の推移をまとめた。2000年が最多の65羽で、その後は減少の一途をたどり、2008年が最小7羽となり、この10年で極端に減少していることが明らかになった。

6. 地区毎の調査結果推移

タゲリは隣接する調査定点を行き来しながら利用しているため、表2は、隣接する定点をまとめて一つの「地区」とし、地区毎の調査結果を年度別にまとめた。羽数は、各地区の中で、定刻調査、移動ルート調査の中での最大数を記入した。

1) 小出川上流地区

芹沢に位置するこの地区は、2001年1羽、2004年4羽と断片的に記録されているだけである。水田面積は当初からあまり変わっておらず、急激な環境変化もない場所である。面積も狭くないが、乾田化しており、湿田を好むタゲリにとっては主要な越冬場所となっていない可能性がある。

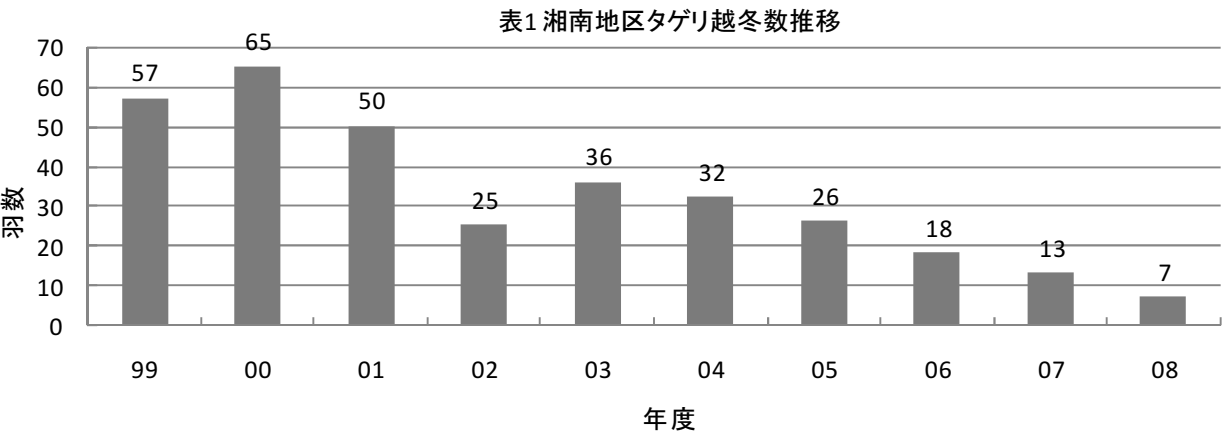


表2:地区別の最大確認数(調査時間中の最大数、定刻以外の時間を含む) 斜線:未調査 棒線:記録ゼロ

地区	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
小出川上流地区		-	1	-	-	-	4	-	-	-
小出川中上流、駒寄川地区	1	25	22	1	3	-	1	-	-	-
小出川中流地区	33	25	23	21	18	32	16	18	13	-
目九尻川周辺		-			-	-				7
相模川		24	-	-	-	-	-	-	-	
引地川流域		3	4	1	-	-			-	-
赤羽根地区	-	-	-	-						
室田地区		-	-							

地区に含む定点名

小出川上流地区	芹沢(斎場、新道橋、芹沢農地改良碑)、打戻
小出川中上流、駒寄川地区	下寺尾(西方・一ツ橋、北方・駒寄川、北方・寺尾橋)、岡田東中学
小出川中流地区	西久保(大町東側、西側・北側)、萩園島入、大曲(三丁目、四丁目)、一之宮(南、東、西(九、八丁目、北)、田端)
目九尻川周辺	小動旭橋付近、宮山、宮原大昭橋南側
相模川	平太夫新田
引地川流域	大庭(門先、関下)
赤羽根地区	赤羽根五宮
室田地区	室田二丁目

2) 小出川中上流、駒寄川地区

1999 年から 2003 年まで連続で記録されており、うち 2000 年から 2001 年は 20 羽を越える個体が確認されていた。その後 2005 年の 1 羽を最後に確認が途絶えている。

これらの理由として考えられるのは、2002 年度頃から駒寄川流域の湿地帯が造成され、住宅地に代わっていったことで、岡田の水田を含めたタゲリの越冬地域が分断、縮小されたことが考えられる。

3) 小出川中流地区

一之宮、田端、大曲、西久保、萩園の一帯は、小出川の両岸に広がる湘南地区では最大規模の水田地帯である。ここでは 1999 年から 2007 年まで連続して記録されており、1999 年には 33 羽、2004 年には 32 羽など、調査地区の中では最も多くの個体が確認されており、タゲリの越冬の中心地となっている。

しかし、個体数の推移を見ると急激に減少しており、2007 年度はゼロとなった。

減少の原因としては、新湘南バイパスの完成により、西久保が東西に分断されたり、西側、南側に大型の建物が建設されたことで、東側へのタゲリの飛来はなくなった。また、相模縦貫道の建設で、西久保と寒川町側が分断される影響も懸念される。特に一之宮の定点では、水はけが悪くタゲリにとってはよかったが、休耕田が増え、休耕田が埋め立てられたり、畑に転作されることなどで乾燥化が進んだことも原因と考えられる。

4) 目九尻川周辺

特に宮原の大昭橋から小動にかけては広い水田地帯が広がるが、調査当初は確認されず、不定期に調査地点として加えているだけであった。しかし 2008 年度に 7 羽確認され、2009 年度 9 羽(タゲリー斉調査会確認、未発表)が確認されている。聞き取りではかなり以前からタゲリを見ている人がいる場所であり、安定的な飛来がある場所ではないかと思われる。

5) 相模川

2000 年に 24 羽記録されて以来、記録が途絶えている。相模川の中洲に降りている確認例があるが、潮の干満にも影響を受けるため、安定的な越冬場所

とはなっていないと思われる。

6) 引地川流域

2000 年から 2002 年まで数羽の確認ができていたが 2003 年から確認されない。大規模な開発など、環境の変化はあまりなく原因はわからない。10 月下旬の渡りの初期に立寄る個体の情報はまだある。

7) 赤羽根地区

広い水田地帯で湿田もあったため、調査初期はタゲリの情報があつた為、調査地点にしていたが、調査日には確認されていない。その後農地改良工事により乾田化され、飛来が途絶えた。現在は工事が終了したが、未だ確認例はない。

8) 室田地区

2000 年 2001 年と調査したが、確認記録はない。水田面積が狭く、隣接した水田もないため越冬地にはなっていないと思われる。調査はその後中止している。

6. 考察

項 5、項 6 で述べたとおり、全体的にも、地区毎でもタゲリの数は急激に減少し、飛来が途絶えたところもある。

これらの最大の原因は湿田の乾田化と水田の減少であり、その対策が急務となっている。

表 3 のように神奈川県統計でも、当地の水田面積は年々減少している。水田は休耕田、畑に転作、道路、建物、宅地などの建設で減っているが、水田は農家個人の土地であり、また収入の間でもあるため、水田の減少を食い止めるには、農家の生活にメリットのある仕組みが必要である。また、水田以外の湿地として、遊水地の設置など、防災と生物多様性を兼ねた場所の創出も必要である。

市町村	水田面積(ha)		
	1989年	1998年	2003年
藤 沢 市	210	160	148
茅ヶ崎市	113	77	61
寒 川 町	121	78	83

表 3: 水田面積の推移

(神奈川県環境農政部作成資料もとに樋口が編集)

西久保地区では、自然保護の市民団体である三翠会により農家からお米を買上げて販売する自然保護活動が進められている。

また、茅ヶ崎市では市街化調整区域の水田に、遊水地機能を認め、その面積に応じた助成金が支払われる仕組みがスタートした。

タゲリの暮らす水田は、夏でも周囲より涼しく、ヒートアイランド現象の抑制の機能がある。また、稲の二酸化炭素の吸収機能や、水質の浄化機能など多様な公共的機能を持っており、水田があることで市民にもメリットがある。

市民や行政は、これらの価値を考え、湘南地区の未来図の中に水田や湿地をどのように位置づけていくか検討していく必要がある。

最後に寒中の調査に参加していただいた、多くの皆様、調査の方法、報告書の書き方などなにもわからないところからご指導いただいた岸一弘氏、タゲリの越冬地の水田を継続していただいている農家の皆様に感謝を申し上げる。

参考文献

神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995. 鳥類. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書, 140-156.

神奈川県立生命の星・地球博物館, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, 鳥類. 233-264.

茅ヶ崎市, 2006. 茅ヶ崎市自然環境評価調査概要報告「自然環境評価マップで茅ヶ崎の自然を見てみよう」, 36-38.

河村まき子・鈴木國臣・岸一弘, 2001. 茅ヶ崎市におけるタゲリの記録(1999 年度). 文化資料館調査研究報告, (9):9-16.

樋口公平・岸一弘, 2002. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリー斉調査(2000 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (10):29-31.

樋口公平・岸一弘, 2003. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリー斉調査(2001 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (11):17-19.

樋口公平・岸一弘, 2004. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市, 横浜市戸塚区におけるタゲリー斉調査(2002 年

度)について. 文化資料館調査研究報告, (12):25-27.

樋口公平・岸一弘, 2005. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリー斉調査(2003 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (13):1-3.

樋口公平・岸一弘, 2006. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリー斉調査(2004 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (14):1-3.

樋口公平・岸一弘, 2007. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリー斉調査(2005 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (15):11-13.

樋口公平, 2008. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリー斉調査(2006 年度)について. 文化資料館調査研究報告, (17):1-3.

1) タゲリー斉調査会・三翠会・茅ヶ崎野外自然史博物館